
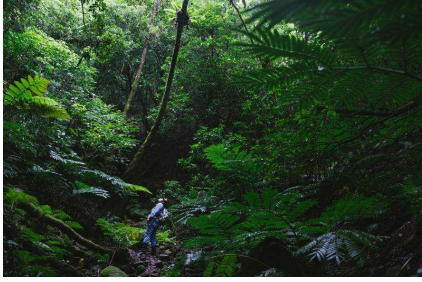



【小笠原エコツアーリズム推進協議会】

項目	内容
<p data-bbox="225 369 517 405">代表的なエコツアー</p>  	<p data-bbox="683 369 1366 405">1. ホエールウォッチングツアー（父島・母島）</p> <p data-bbox="695 416 855 452">【実施時期】</p> <p data-bbox="695 463 1334 499">（ザトウクジラ）2～4月（ベストシーズン）</p> <p data-bbox="695 510 1398 546">（マッコウクジラ）5～11月（ベストシーズン）</p> <p data-bbox="695 557 791 593">【内容】</p> <p data-bbox="676 604 1449 739">日本で最初の商業ホエールウォッチングが行われた小笠原諸島。陸上や船上から、クジラの雄大な生態に触れ、学ぶことができるツアーです。</p> <p data-bbox="683 797 1107 833">2. 南島上陸ツアー（父島）</p> <p data-bbox="695 844 855 880">【実施時期】</p> <p data-bbox="683 891 999 927">2月上旬～11月上旬</p> <p data-bbox="695 938 791 974">【内容】</p> <p data-bbox="676 985 1449 1120">国の天然記念物にも指定されている「沈水カルスト地形」という石灰岩特有の特殊な地形が幻想的な小さな無人島である南島に上陸するツアーです。</p> <p data-bbox="683 1178 1334 1214">3. 千尋岩（ハートロック）ツアー（父島）</p> <p data-bbox="695 1225 871 1261">【実施時期】</p> <p data-bbox="676 1272 743 1308">通年</p> <p data-bbox="695 1319 791 1355">【内容】</p> <p data-bbox="676 1366 1449 1500">海拔約260mの千尋岩（ハートロック）の頂を目指すツアーです。道中は絶景の他、固有動植物の生態系の観察、太平洋戦争の戦跡の鑑賞などできます。</p> <p data-bbox="683 1559 1302 1594">4. 石門（せきもん）一帯ツアー（母島）</p> <p data-bbox="695 1606 855 1641">【実施時期】</p> <p data-bbox="683 1653 836 1688">3月～9月</p> <p data-bbox="695 1700 791 1736">【内容】</p> <p data-bbox="676 1747 1449 1935">石門は、湿性高木林を主体とした原生性の高い生態系上重要な地域で、極めて貴重な母島だけに生息する固有動植物が存在します。また、“針の岩”と呼ばれる石灰岩の溶食地形（ラピエ）が見られます。</p>

	<p>【問い合わせ先】 (父島) 小笠原村観光協会 04998-2-2587 http://www.ogasawaramura.com/ (母島) 小笠原母島観光協会 04998-3-2300 http://www.hahajima.com/ 平成30年度は推計19,700人ほどの方がこれらを中心としたエコツアーに参加されました。</p>
<p>エコツアー推進法の基本理念への取り組み状況</p> 	<p>1. 自然環境の保全 (1) ルールの啓発 「小笠原ルールブック」により小笠原の自然、文化を守りながら持続的な利活用をしていくために必要な法令・ルールをご紹介します。</p> <p>(2) ルールの遵守 エコツアーを実施する事業者は、前述の各種ルールに基づいてツアーを企画運営し、参加者にはルールへの理解を深めてもらうよう努力しています。</p> <p>2. 観光、地域振興 「小笠原固有の自然や文化を保全しながら持続的な利用を図りつつガイドの社会的な地位を確立すること」を目的に、陸域ガイド登録制度を運用しています。</p> <p>3. 環境教育の場としての活用 年間を通じて数多く島外から来島する修学旅行、学習旅行の児童、生徒、学生に対し、海や山のツアープログラムの中で、担当するガイドが小笠原の固有生態系の希少性と共にその保全の重要性についてレクチャーしています。</p>
<p>特記事項</p>	<p>小笠原村は平成28年1月28日に全国7番目、世界自然遺産登録地域としては初めてエコツアー推進全体構想の認定を受けました。</p> <p>また平成28年の新型定期船の就航より来島者数も増加しており、地域全体で自然遺産の保全と利用の両立に日々取り組んでいます。</p> <p>協議会においても各構成員がそれぞれの事業において両立に向けた実際の取り組みを行いながら、情報共有、協議を通して課題解決を進めるとともに、情報の発信に努めていきます。</p>